

大阪損保革新懇ニュース

大阪損保革新懇事務局

大阪市中央区道修町3-3-10

日宝道修町ビル3F

06-6232-1095

謹賀新年

新しい日本の政治に転換しよう!



写真提供 楠目敏延さん(あいおいニッセイ同和革新懇)

新年おめでとうございます。

アメリカではトランプ大統領が誕生しました。安倍総理は「トランプ詣で」と「真珠湾おわび訪問」で忠実な対米従属体質を一層明らかにしました。アベ政権は年末だけでもTPP批准・原発再稼働・南スーダン派兵・年金カット法案採決・カジノ法案採決などますます狂暴・暴走体質を強めています。

この情勢の中で国民の怒りが高まり、市民と野党の共闘が進み、安倍政権を退陣させ、新しい日本の政治に対する国民の期待も強まっています。私たちは先の総会で、あらためて「人間の尊厳を守る」たたかいを取組むことを確認しました。来年10月には結成20周年記念総会を迎え、さらに次の10年目の活動に入ります。今年はこれからの2・3年を展望し、多彩に有意義な活動を重ねるスタートの年として互いに奮闘しましょう。

2017年元旦

代表世話人 野村英隆

2016年を振り返る・大阪損保革新懇重大ニュース

1)大阪損保革新懇第19回定例 総会・講演会に122名が参加

10月21日、第19回定例総会で、松浦章世話人が「『個人の尊厳と損保の未来』—損保産業の担い手は従業員と代理店—」をテーマに基調報告。つづいて岡野八代さん(同志社大学大学院教授)が「立憲主義を守り<人間性>をとりもどす政治を!」と題した講演を行いました。

新年度世話人選出など議案を可決し、アピール「市民と野党の共闘で 日本の政治を変えよう! 個人の尊厳をとりもどそう!」を全員の大きな拍手で採択。恒例となった居酒屋を借り切った懇親会にも70名が参加し交流を深めました。

2)損保代理店シンポジウムに 159名が参加

2月19日に損保革新懇・代理店プロジェクト主催のシンポジウム「改正保険業法施行の今、あらためて『代理店手数料ポイント制度』を考える」を開催し、岐阜、長野、静岡、福岡、岡山、東京などの代理店も含め、会場いっぱいの159名が参加。来賓として衆議院議員の清水忠史さんが挨拶しました。

松浦章世話人の基調報告をうけ、パネリストとして渡邊輝朗さん、町井昭雄さん、原田知彦さん、田中孝さんが代理店手数料ポイント制度の現状とそのあり方について報告を行いました。質疑応答では会場から7名が発言。

最後に松浦章世話人が今後の方向性、取組みについてまとめを行いました。終了後、近くの居酒屋を借り切った懇親会に78名が参加し遅くまで語りあいました。

3)「政治を変えよう!選挙に行こう!」と夏特集号ニュース発行し届ける

参議院選挙の争点を、「保守か革新」ではなく、「立憲主義を守るかどうか」という国のあり方が問われる選挙と位置づけ、安倍暴走政治をストップさせ、まともな政治をとりもどそう。日本の社会と損保の未来がかかった選挙に一人ひとりが有権者としての権利を行使しよう、と特集号ニュースを発行しました。

①損保は平和産業 ②TPPと保険 ③原発リスクと損保の社会的責任 ④労働法制の改悪と損保の労働時間制度について詳細にわたって報告。全国の仲間から反響をよび、職場の仲間にも読んでもらいたいなど、たくさんの声が寄せられ、3000人を超える仲間へ届けました。

4)近畿財務局に6度目の要請書を提出し回答を求める

3月17日、近畿財務局を訪問し、代理店問題について『手数料ポイント制度』の抜本的改革を求める要請書を提出しました。今年で6年連続となります。

4月8日に回答を求めて再度訪問。第三課（保険）の上席調査官から「要請書の提言についてはきちんと受けとめ、手数料制度はそもそも金融庁の問題だというご意見を本庁にきっちり伝えます」と回答がありました。

5)戦争法廃止署名4381筆に

安倍政権によって2015年9月19日に「成立」した「戦争法」が3月19日に施行されました。私たちは「戦争法の廃止を求める」2000万人署名こそ大きな力となると考え、1月から目標3000筆をめざして会員のみならず、よびかけ、職場で、住んでいる地域で、さらに親戚・知人・友人にと積極的に取り組みました。

一人で100筆を超えて集める人が多くで、6月末に4381筆を集約しました。

6)「戦争法廃止！改憲許すな！」 ・大阪総がかり集会に参加

5月3日、扇町公園で“憲法壊すな「戦争法廃止」”の集会があり、2万人が集まりました。損保からは損保革新懇のノボリを掲げて52名が参加。「戦争法廃止」のパネルを一人ひとりが持参し、コールしながら北区・中津まで元気にパレードしました。

9月19日、西区うつぼ公園での“改憲許すな！戦争法廃止！”の集会には5000人が集まり、損保からも31名が参加。御堂筋を南下し難波までパレードしました。

7)小畑さんの職場復帰のたたかいは最終弁論・結審を迎える

大阪地裁において、14回目が2月1日、15回目が4月15日、16回目は8月24日、17回目は8月25日に開かれ、小畑裕久さん本人と原告側3人の証人尋問があり、会社の不当性を明らかにしました。裁判日には各々60名を超える傍聴者が法廷を見守りました。そして11月28日最終弁論・結審となりました。

2月22日(水)に判決を迎えます。

8)損保ジャパン日本興亜株主総会に向けて24名が上京

6月26日、「小畑さんの職場復帰を実現する会」は24名が上京し、役員宅周辺にビラを配布。夕方から在京の仲間との交流会を行いました。27日は本社前で従業員向けビラ配布を行った後、S J N Kホールディング株主総会に出席し、5名が発言・質問しました。

9)東北復興支援現地見学と交流ツアー

11月19日～21日に21名が東日本大震災から5年8ヶ月を経過した福島、宮城、岩手の被災地を訪問しました。福島の帰還困難地域では、バスの中でも放射能線量計が鳴り止まぬ状況で、復興はまだまであることを目の当たりにした交流ツアーでした（感想集と写真を参照してください）。



1日目・女川の華夕美旅館からの日の出



2日目・宮古市の浄土ヶ浜に宿泊 ホテルも景色も最高

10)絵てがみ教室を毎年で10回開催

2011年から永井喜代子さん（三井住友海上革新懇）を講師にスタートし、12月で60回目を迎えました。毎月第3週の金曜日に定例化し、アイクルの部屋で開催。毎回10数名が参加しています。

昨年は2月の「代理店シンポジウム」会場と10月の「第19回定例総会」会場で各々の作品を披露しました。初心者大歓迎です。

あれから5年8ヶ月

東北3県を訪ねて

11月19日から3日間21名が参加し現地との交流を深めて来ました。

伊藤達也さん(浜通医療生協理事長)のご案内で浪江町を皮切りに

4つの無人の町を巡りました。浪江町は最近除染されたとのことで家や街並みはきれいになっていますが、それだけ逆に無人の町の異様さが浮き彫りになります。伊藤さんは、全国の皆さんにこの無人の町をぜひ一度目にしてほしい!と強く訴えられました。

福島第一原発は双葉町と大熊町にまたがってたてられています。この2つの町は帰還困難地域として、国道以外足を踏み入れることはできません。

最後の富岡町では、バスを降りて町を歩きました。富岡第二中学校の講堂には、5年8ヶ月前に行われた卒業式のパネルと紅白の幕がそのまま飾られていました。原発事故が、何よりもコミュニティを破壊するものだという事を痛感させられました。

宮城県南三陸町、町職員が最後まで避難を呼びかけ犠牲になった防災庁舎です



ここまで到達



2日目は大船渡市議員の田中英二さんにご案内いただきました。岩手県陸前高田市の道の駅「高田松原」は高さ約20mですが14.5mまで津波が達したとのことです。5階建ての公営住宅も5階のベランダまで達しています(感想集・上の写真参照)。この住宅はそのまま保存されるそうです。6年近く経ちましたが震災を風化させてはならないと思います。

3日目は あまちゃん列車(三陸鉄道)

田野畑から久慈まで1時間10分、貸切で震災のお話を伺いながらの学習列車となりました。あまちゃん列車の中で、震災時ちょうど列車を運転していたという三陸鉄道の上席運転士の下本



さんから1時間に亘り東日本大震災と三陸鉄道の状況について説明をいただきました。

あまちゃんの撮影当時の話もされましたが、これだけあまちゃんに食い付きの良いお客様は初めてですと大変感激されました。

さすが大阪のおばちゃん達です。乗車することがなにより三陸鉄道への支援になるとのこと。

皆さんもぜひ岩手へ!

写真はあまちゃんの舞台になった「袖が浜」駅(実際は「ほりない」駅)です。



<第31回日新火災職場革新懇> 「憲法バル」に18名

参加いただいたお二人の弁護士の一人名「改憲論」。でも、自民党の改憲草案には異論を述べられ「意見の違う弁護士も含め全員入っている弁護士会が安保法制に反対を表明したりするのは、人権擁護を定めた弁護士法があるから」とのことです。さまざまな人権の大切さにも話が咲きました。30歳から72歳まで現役にOBを交え参加者全員が発言し、交流も深めました。



<新年行事のご案内>

拡大世話人会・新年会

1月12日(木) PM6:30~
参加費:2000円 アイクルの部屋にて

ムービーNight アイクル主催
「殿・利息でござる」

1月18日(水) PM6:20~

小畑闘争街頭ピラ宣伝

1月26日(木) AM11:30~PM1:00
肥後橋周辺にて

講演会**「カジノ問題を考える」**(仮称)

2月10日(金) PM6:30~

講師:櫻田照雄さん(阪南大学教授)

講演会**「福島の真実」**(仮称)

3月10日(金) PM6:30~

講師:長谷川健一さん(飯館村・酪農家)
参加費2000円(懇親会費含む) アイクル隣にて

絵てがみ教室のご案内

毎月第3金曜日を基本に実施しています。

初心者大歓迎 アイクルの部屋にて

次回は1月20日(金) PM6:30~

<小畑裁判・判決>

2月22日(水) AM1:10~

大阪地裁8F809号室

判決後・弁護士会館9F

904号室にて傍聴者集会

<報告集会>

同日PM6:30~アイクルの部屋にて

参加費:1000円

(小畑さんの職場復帰を実現する会)

絵てがみ教室作品集



東北現地見学と交流ツアー ＜参加者感想集＞

津波は団地の5階まで到達



お金の使い方間違っていますか？

父をショートステイに預けて、10年ぶりの旅行に胸を高鳴らせ向かった東北。

仙台空港に降り立ち、一路震災の日のまま時間が止まってしまった福島県の無人の町へ。放射線についての説明を聞きながら、遠くに原発を見たり、卒業式の飾りがそのままの体育館を見学。宮城県女川温泉泊。

2日目は、復興途上の岩手県。陸前高田の道の駅、津波到達の目印が5階の手摺に刻まれた建物等を見学。大船渡復興商店街で昼食。

最終日は、あまちゃん列車を貸し切り、震災時に運転していた運転手さんから震災と現状について、列車を止めたりしながらの解説に耳を傾けた。そして何より、バスガイドさんの体験談、涙が止まりませんでした。

安倍首相!! お金の使い方、間違っていますか？

三陸の海の幸を堪能しながら、高齢者医療費、介護費用、そして東北の復興にもっとお金を使って欲しいと痛感する旅でした。

(西村美穂さん・三井住友革新懇)

無人の町を見て

原発事故により、人口がいまだに0である双葉町などを見てきました。帰還困難区域を南北に貫く道路をバスにて走行しました。立ち入ることができないように金属製のゲートがすべてを封鎖していました。卒業式のための紅白の幕があの日そのままとなっている学校の体育館なども拝見しました。

放射線は目にはみえないし、匂いも全くありません。案内していただいた伊東さんが持っていた線量計だけが「ピピッ」と音を発し、その存在を知らせます。原発事故の解決を行わないまま、原発を再稼働させようとしている安倍政権をはじめとする原発推進勢力にはあらためて腹が立ちました。

私の住む福井県は福島県と境遇が似ています。その電気を使うのは立地県の住民ではないという点です。地元では経済的な理由からの再稼働容認の声が聞こえます。福島事故後を実際に見れば、そんなことは言っていられない気持ちになると思いました。

(福井から参加の西田昭弘さん・損保ジャパン革新懇)

津波の高さを目のあたりにして

春になれば満開の姿で私たちを魅了するであろう桜並木。閑静な住宅街の中学校・講堂には紅白の幕が飾られ、正面には「第64回卒業証書授与式」の文字。翌、3月12日は卒業式だったのだ。時の止まった街などと言うが、その日の卒業生たちは20歳になっている。時は止まっていないのだ。

盛土の谷間をバスで走る。陸前高田の街はかさ上げ工事が進み大型商業施設も出来るという。新築の住宅も並びはじめている。そんな風景の中、頭上に示されている「津波到達ライン」の記しに目が止まる。福島、宮城、岩手とバスで走り、被害の広範さに驚き、津波の怖さ、放射線の悲情さに言葉を失った。

3日目は復興のシンボル、北三陸鉄道に乗り久慈へ。ドラマ「あまちゃん」の聖地(?)も写真に納め大満足。ところが、帰宅翌日早朝、福島沖での地震速報! また津波が来る! 久慈港にも!! テレビ画面を見ながら涙が出そうだった。地震大国日本、どこに住んでもいつ被災者になるかわからない。元の生活に戻るのには難しいだろう。でも、被災者ファースト、国民のファーストの目線で、これからの生活をどう創っていくのかを考え、求めていかなければいけない。

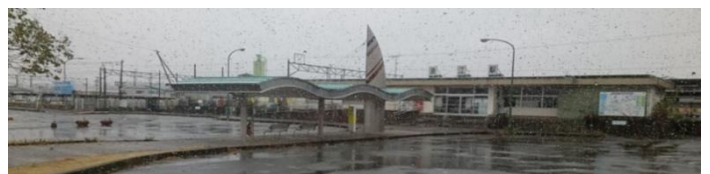
(平川みゆきさん・損保ジャパン革新懇)

絶対に風化させてはいけない

旅行に際して食事面でお手数、お気使い頂き有り難うございました。快適に過ごせました。初日、浪江町・双葉町・富岡町を回った折り、時間が止まっているような気がして何と不合理な憤りを感じました。

この町の人は福島発電所の電力を使用しないにも関わらず、自分の家にも帰れず、日常生活を奪われ、五年半過ぎた今も放射能レベルが高く我が家の前には施錠された塀が有る。その人達の気持ちを考えたら居た堪れなくなりそうに絶対に風化してはいけないと思った。

陸前高田の道の駅の津波到達点を観た時、余りにも高く啞然としました。地震当時、車で避難しようとしていた沢山の人達は津波に吞込まれたんだなと思った。今は土地の底上げ工事の真っ最中で大型店舗建設が進んでいる所や、片や今だに仮設住宅に住んでいる人、復興後の生活を考えたら、複雑な気持ちになりました。(山本絹江さん・三井住友革新懇)



「無人の浪江駅」 写真提供・西村美穂さん